

目次

Table of Contents	1
1.1 ご使用前の感謝状	3
1.2 当マニュアルの特色	4
1.3 安全上の情報	4
Chapter 2 Introduction to This Motherboard	5
2.1 マザーボードの外見は?	5
2.2 仕様	6
2.3 構成図	7
3.1 クイック・インストレーションの手順	8
3.2 インストールのために知っておくべきこと	9
CPUをインストールする	9
リテンションモジュールのインストール	10
CPUとシステムファンをインストールする	10
CPUとシステムファンをインストールする	11
メモリーモジュールをインストールする	12
IDEとフロッピーケーブルを接続する	13
ATX電源ケーブルを接続する	14
フロントパネルケーブルを接続する	15
3.3 他のインストール参考情報	16
CPU電圧およびクロックの設定する	16
Serial ATAを接続する	17
ハードディスクの設定を調整する	18
PCI Express x16グラフィックス・スロットに接続する	19
PCI Express x 1スロットに接続する	20
IrDAに接続する	21
10/100/1000Mbps LANをサポート	22



USB2.0に接続する	23
1394に接続する.....	24
S/PDIFに接続する.....	25
スーパー7.1チャンネルオーディオ効果	26
フロントオーディオに接続する.....	27
ゲームポートに接続する	28
CD_INに接続する.....	29
Case Openに接続する.....	30
色分けされた後部パネル	31
3.4 ジャンパー設定.....	32
Chapter 4 Special Features and Utilities.....	34
RAID (Redundant Array of Independent Disks)	34
RAID構成ユーティリティ.....	34
他の便利な機能.....	35
Chapter 5 Setting BIOS.....	36
紹介.....	36
Phoenix-Award™ BIOS設定プログラムの使い方.....	37
BIOS設定への入り方.....	37
Chapter 6 Installing Drivers	38
6.1 ドライバーをインストールする	39
6.2 ユーティリティをインストールする	40
Chapter 7 Troubleshooting.....	41
Chapter 8 Technical Support	42
型式名およびBIOSバージョン.....	43
お買い上げのマザーボードの登録.....	43

1.1 ご使用前の感謝状

まず初めに、AOpen製品をご購入くださり厚くお礼を申し上げます。当マザーボードは皆様のあらゆるニーズに合うよう、弊社の優秀な設計能力を駆使し、品質のために尽力を傾け設計されました。

このマニュアルは当マザーボードのインストールの仕方を紹介しています。今後の参考として保管してください。印刷されたマニュアルをなくされた場合は、最新のファイルをダウンロードするために弊社のウェブサイト<http://www.aopen.com>にアクセスして頂くことも可能です。

それでは、このユーザーにとって使い勝手のよいマニュアルとAOpenが提供するパワフルな機能のすべてを個人的に経験なさるようお招きいたします。

AdobeとAcrobatのロゴはAdobe Systems Incorporatedの登録商標です。

AMD, AthlonそしてDuronのロゴはAdvanced Micro Devices, Inc.の登録商標です。

Intel, Intel Celeron, Pentium II, IIIそしてPentium 4のロゴはIntel Corporationの登録商標です。

nVidiaのロゴはnVidia Corporationの登録商標です。

Microsoft, Windowsのロゴはアメリカ及び他の国々におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

当マニュアルで言及されている製品のタイトルや商標は解説上の便宜を目的としており、それぞれの企業によって所有されています。

使用上の標準やそれに関連する情報に関わる変更について提供できないことを遺憾に思います。AOpenは当マニュアルの内容について変更や修正を加える権利を留保しています。商品に関わる点も含むいかなる誤記について、AOpenは保証や義務を負うものではありません。

当文書は会社を保護し全ての権利を留保するための著作権法に基付いています。

AOpenからの正式な文書での許可がない限り、どのような状況であれ、本冊子をいかなる種類に複製することも、データベースや媒体に取り込むことも許されていません。

1996-2005 Copyrights, AOpen Ltd. 版權所有。

1.2 当マニュアルの特色

当マザーボードの便利な情報や知っておくべき特定の状況を把握するために、以下のアイコンがしばしば出てきます：



組み立ての過程で知っておくべき知識や役立つヒントを含んでいます。



このマークを見たら注意して下さい。組み立て中によく起きるミスや注意すべき点を強調しています。



このヒントはインストールをスムーズに行うために役に立つ情報を教えてくれます。

1.3 安全上の情報



コンポーネントを扱う前に、リストストラップを着用しユニットの金属部分に触れてください。別の方法としては、アースされた物体に触れるか、その金属面に触れてください。



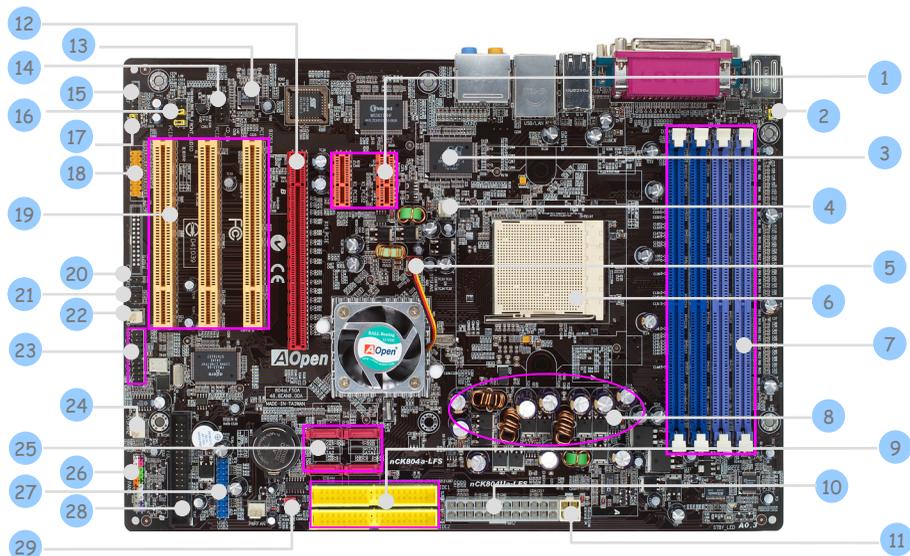
ジャンパー設定の前には常に電源を抜いてください。



マザーボード上のコンポーネントをインストールしたり外したりする前には、最初に電源を外し、マザーボードや他のコンポーネントにダメージを与えないようにして下さい。

2章 当マザーボードの紹介

2.1 マザーボードの外見は？



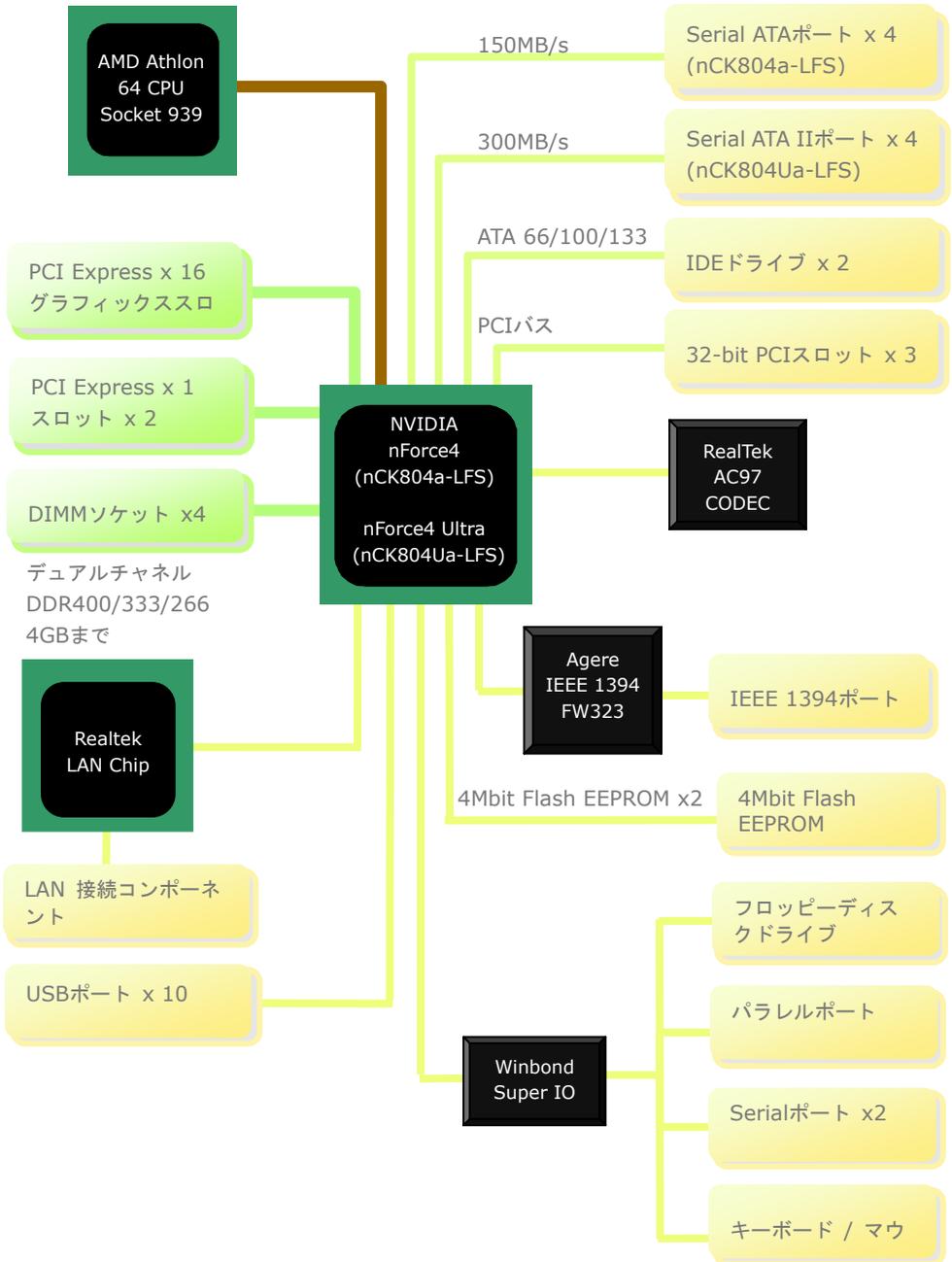
1. PCI Express x 1	16. フロントオーディオコネクタ
2. JP28 PS2 KB/マウスウェイクアップジャンパ	17. JP40 S/PDIFソースジャンパ
3. LAN PHY 88E1111	18. ゲームポートコネクタ
4. CPUFANコネクタ	19. 32ビットPCI拡張スロット x 3
5. SYSFAN1コネクタ	20. Case Openコネクタ
6. AMD Athlon 64 CPUをサポートする939ピンCPU Socket	21. IrDAコネクタ
7. 184ピン DIMMsx4	22. システム温度コネクタのセンサー
8. 3300μ F Low ESRキャパシタ	23. IEEE1394コネクタ X 2
9. ATA133コネクタ x 2	24. SYSFAN2コネクタ
10. ATX電源コネクタ	25. Serial ATA IIポート x 2 (nCK804Ua-LFS用) Serial ATAポート x 2 (nCK804a-LFS用)
11. 4ピン 12V ATX電源コネクタ	26. フロントパネルコネクタ
12. PCI Express x 16	27. USB 2.0コネクタ
13. オンボード AC'97 CODEC	28. FDDコネクタ
14. CD-INコネクタ	29. JP24 BIOSレスキュージャンパ
15. S/PDIFコネクタ	

2.2 仕様

お手持ちのマザーボードの主要な機能です。

型式	nCK804a-LFS	nCK804Ua-LFS
CPU	AMD Athlon 64 CPU Socket 939	AMD Athlon 64 CPU Socket 939
チップセット	nVIDIA nFORCE4 CK8-04	nVIDIA nFORCE4 Ultra CK8-04
メインメモリー	デュアルチャンネルモード サポート:DDR400 [PC3200] DDR DIMM x 4 DIMMタイプ :256/512MB & 1GB 最大メモリー :4GB	デュアルチャンネルモード サポート:DDR400 [PC3200] DDR DIMM x 4 DIMMタイプ :256/512MB & 1GB 最大メモリー :4GB
グラフィックス	PCI Express x16 (PCIe x16) スロット	PCI Express x16 (PCIe x16) スロット
IDE	一体型ATA133とSerial ATA コントローラー (Serial ATA RAID 0, 1 と 0+1をサポート) 最大ディスク:144,000,000GB [48ビット LBA仕様による]	一体型ATA133とSerial ATA IIコントローラー (Serial ATA II RAID 0, 1と0+1をサポート) 最大ディスク:144,000,000GB [48ビット LBA仕様による]
LAN	一体型nVidiaギガビットLANコントローラー Marvell PHY	一体型nVidiaギガビットLANコントローラー Marvell PHY
サウンド	Realtek AC'97 CODECオンボード 7.1チャンネル	Realtek AC'97 CODECオンボード 7.1チャンネル
USB	チップセットに一体型,USB 2.0 x 10	チップセットに一体型,USB 2.0 x 10
IEEE1394	Agere 1394 コントロールチップ	Agere 1394 コントロールチップ
スロット	PCI Express (PCIe x1) x 2 PCI Express x16 グラフィックス (PCIe x16) x 1 PCI x 3	PCI Express (PCIe x1) x 2 PCI Express x16 グラフィックス (PCIe x16) x 1 PCI x 3
後部パネル I/O	PS/2 キーボード x 1, PS/2 マウス x 1 USB ポート x 6, LAN ポート x 1 COM ポート x 2, プリンターポート x 1 スピーカー出力 x 1 ライン入力 x 1 マイク入力 x 1 後部サラウンド x 1 中央/サブウーハー x 1 側面サラウンド x 1	PS/2 キーボード x 1, PS/2 マウス x 1 USB ポート x 6, LAN ポート x 1 COM ポート x 2, プリンターポート x 1 スピーカー出力 x 1 ライン入力x 1 マイク入力 x 1 後部サラウンド x 1 中央/サブウーハー x 1 側面サラウンド x 1
オンボード コネクタ	フロントパネル x 1 フロントオーディオ x 1 CPUファン x 1 システムファン x 1 ケースファン x 1 電源ファン x 1 電源温度コネクタ x 1 CD_IN x 1 AUX_IN x 1 IrDA x 1 ゲームコネクタ x 1 S/PDIF x 1 IEEE 1394 x 2 USB ポート x 2	フロントパネル x 1 フロントオーディオ x 1 CPUファン x 1 システムファン x 1 ケースファン x 1 電源ファン x 1 電源温度コネクタ x 1 CD_IN x 1 AUX_IN x 1 IrDA x 1 ゲームコネクタ x 1 S/PDIF x 1 IEEE 1394 x 2 USB ポート x 2
BIOS	Award PnP 4Mb Flash ROM BIOS	Award PnP 4Mb Flash ROM BIOS
ボードサイズ	ボードサイズ : 305 mm x 215 mm	ボードサイズ : 305 mm x 215 mm

2.3 構成図



3章 ハードウェア・インストール

3.1 クイック・インストールの手順



3.2 インストールのために知っておくべきこと

CPUをインストールする

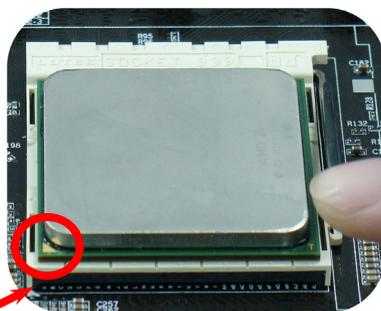
当マザーボードはAMD® Athlon 64 Socket 939 CPUをサポートしています。CPUソケットに差し込むときにはCPUの向きに注意してください。（**CPU過熱保護機能**が組み込まれているため、CPUの温度が97度に達するとシステムが自動的に電源をオフにします）。

1. CPUソケットレバーを90度の角度まで引っ張り上げる。
2. ソケットの1番ピンを確かめ、CPU上部にある金色の矢印を探す。1番ピンと金色の矢印を合わせる。次にCPUをソケットに差し込む。
3. CPUソケットレバーを押し込み、CPUのインストールは完了。

CPUソケットレバー



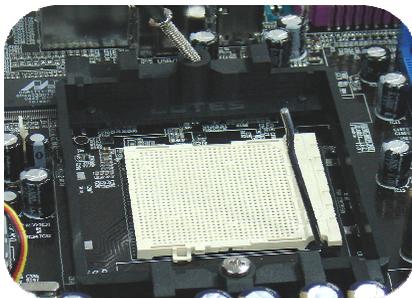
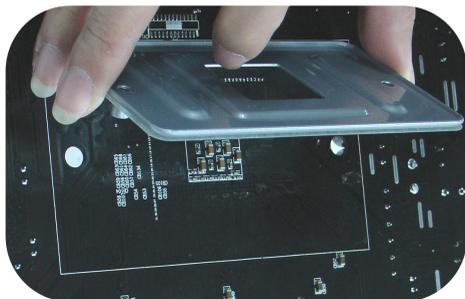
ソケット1番ピン



金色の矢印

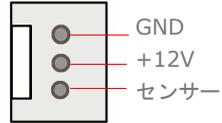
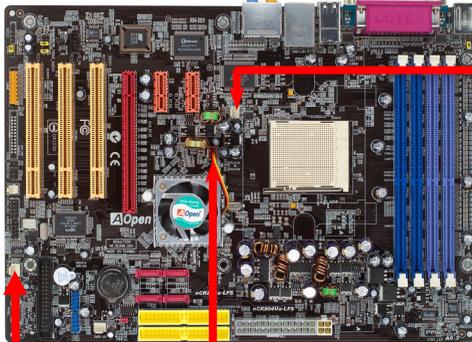
リテンションモジュールのインストール

1. 粘着性のある面をマザーボードに貼り付けるため、2つネジのホルダーをネジホルダーの穴とそろえて下さい。
2. RMの両面の穴をそろえるために、マザーボードのホルダーをネジで留め、次にネジホルダーをロックして下さい。

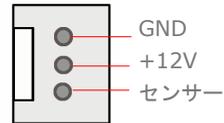


CPUとシステムファンをインストールする

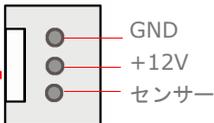
CPUファンケーブルを3ピンCPUFANコネクタに接続します。もしケースにファンがあれば、SYSFAN1かSYSFAN2コネクタに接続できます。



CPUFANコネクタ



システムコネクタ

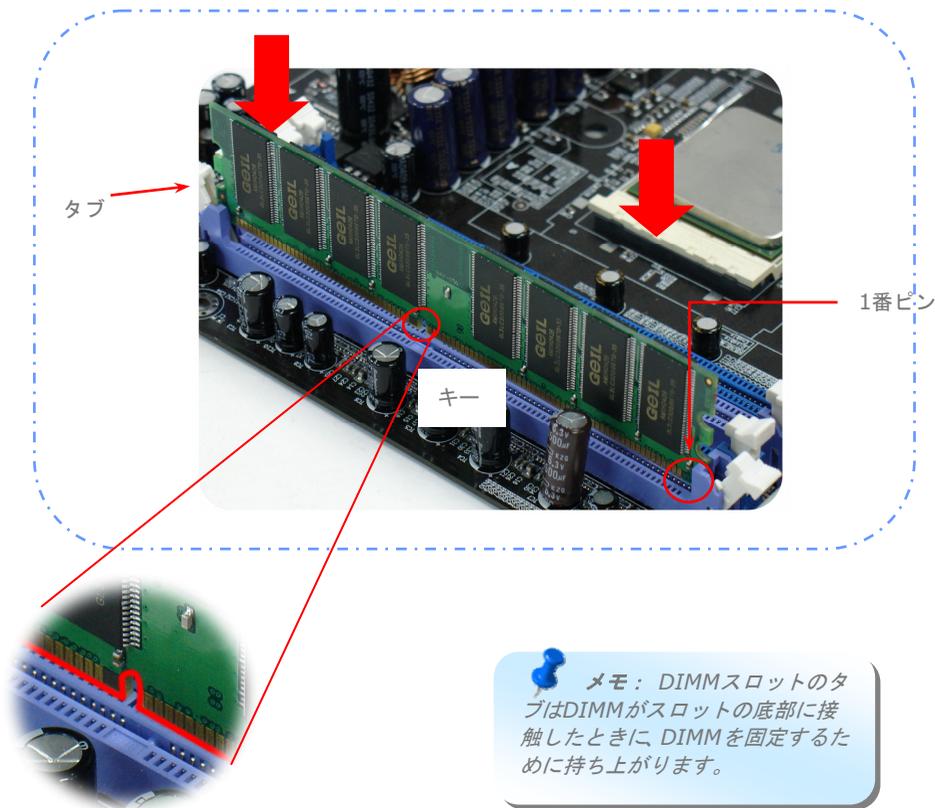


SYSFAN2コネクタ

メモ: CPUファンの中にはセンサーピンのないものがあるので、その場合にはファンのモニターをサポートできません。

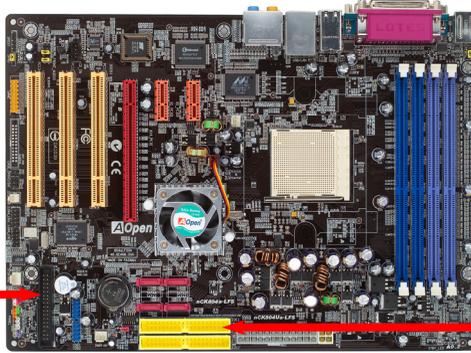
メモリーモジュールをインストールする

DIMMスロットは分かりやすいようにネイビーブルーに設計されています。モジュールを両手でまっすぐにDIMMスロットに挿入し、DIMMモジュールがしっかりと固定されるまで押し込んでください。



IDEとフロッピーケーブルを接続する

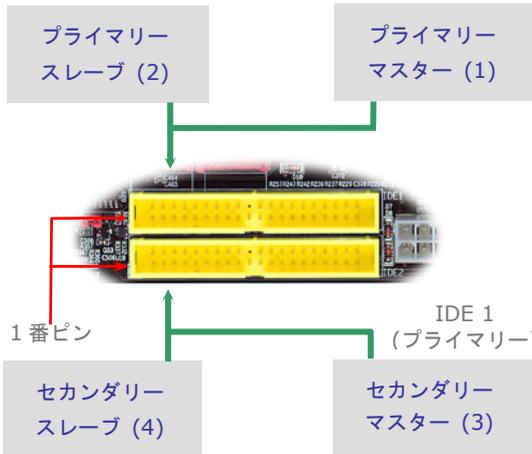
34ピンのフロッピーケーブルと40ピンか80ワイヤーIDEケーブルをフロッピーコネクタとIDEコネクタに接続します。1番ピンの向きに注意してください。向きを間違えるとシステム損傷の原因になります。



FDDコネクタ



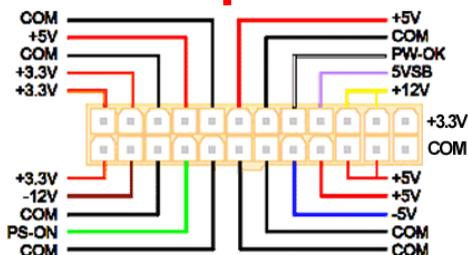
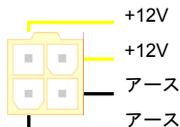
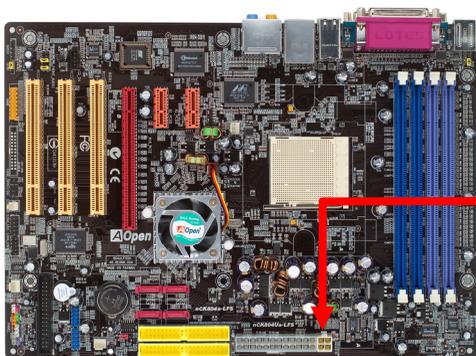
1 番ピン



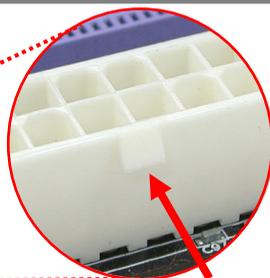
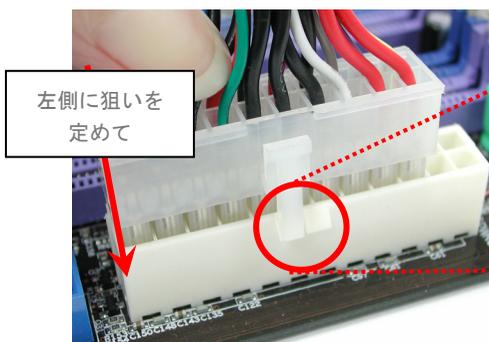
ATA 66/100/133
IDE コネクタ

ATX電源ケーブルを接続する

当マザーボードには下に示されているように、24ピンと4ピンの12V ATX電源コネクタがあります。正しい向きで差し込んでください。24ピンコネクタを差し込む前に4ピンコネクタを差し込んでおかれることを強くお勧めします。



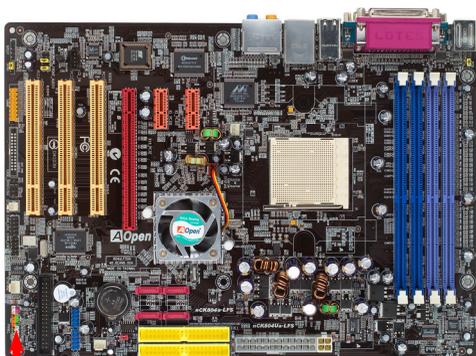
メモ： 図示されているようにミス防止機能が手前を向くよう、電源プラグを24ピンATX電源コネクタの**左側**に狙いを定めて下さい。



フロントパネルケーブルを接続する

電源LED、スピーカー、リセットスイッチコネクタを対応するピンに取り付けます。BIOS設定の“サスペンドモード”の項目を有効にすると、システムが“サスペンドモード”になっている間、ACPI & Power LEDが点滅します。

ATXケースの電源スイッチケーブルを確認してください。ケースの前面パネルの2ピンのメスのコネクタです。このコネクタをSPWRと記されたソフトパワースイッチコネクタに接続します。



1		
NC		Power Switch
NC		GND
+5V		Power LED-
HDD LED		GND
HDD LED		NC
+5V		NC
+5V		GND
GND		GND
NC		RESET
SPEAKER		GND

Front Panel Connector

3.3 他のインストール参考情報

CPU電圧およびクロックの設定する

CPUコア電圧を設定する

当マザーボードは、電源オン時にCPU電圧の自動検出を行う電圧ID (VID)機能をサポートしています。しかし、ユーザーがオーバークロックをする場合に、BIOSの中で0.80V~1.55Vの範囲を提供しています。元々のコア電圧をわずかに増加させると、CPUオーバークロックが上手くいくことがあります。

CPUクロックを設定する

当マザーボードはCPUジャンパレス設計で、CPUクロック設定はBIOSの1MHzずつのCPUオーバークロック機能から行います。**CPUコアクロック = CPU FSBクロックx CPU レシオ**。ただし、現在市場に流通するCPUは“倍率固定”、すなわちユーザーによるCPUレシオは調節不可能で、オーバークロックにはCPU FSBクロックのみが調節可能です。

BIOS設定 > クロック / 電圧制御 > CPUスピード設定

(オーバークロックは自己責任の元行って頂きますようお願い致します。)

CPUレシオ	4x から 25x step 1x まで
CPU FSB (マニュアル調整)	FSB = 200 MHz-250 MHz 1 MHzずつのCPUオーバークロックによる

AMD CPU	CPU コアクロック	CPUクロック	L2キャッシュ	レシオ
Athlon 64 3000+	1800MHz	200MHz	512KB	9x
Athlon 64 3000+	2000MHz	200MHz	512KB	10x
Athlon 64 3200+	2000MHz	200MHz	512KB	11x
Athlon 64 3200+	2200MHz	200MHz	1024KB	11x
Athlon 64 3400+	2200MHz	200MHz	512KB	12x
Athlon 64 3400+	2400MHz	200MHz	1024KB	12x
Athlon 64 3700+	2000MHz	200MHz	256KB	10x

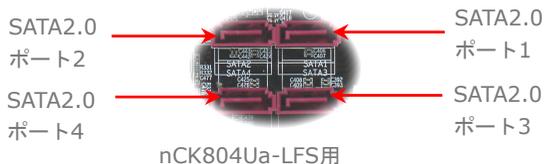
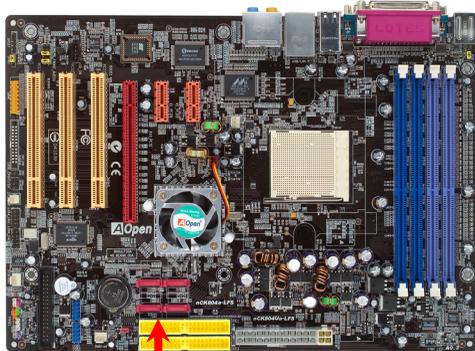
メモ：CPUのスピードは急速に変化するため、このインストレーション・ガイドを手にする時点ではより高速のCPUがあるかもしれません。この表は参照のためのものです。さらに情報は販売店までご連絡下さい。

 **メモ：**オーバークロックのためにシステムがハングしたりリポートに失敗する場合は、デフォルト設定を戻すために<Home>キーを使用するか、AOpenの "Watch Dog ABS"がシステムをリセットするまで5秒間待ってください。ハードウェアを再度自動認識します。

 **警告：**現在のCPUでCPUレシオを調整していた場合は、新しいCPUに交換する計画をお持ちかもしれません。新しいCPUに交換するときは、設定値を戻すために、<Home>キーあるいは Clear CMOSをお使い下さい。というのは、システムは依然として新しいCPUに対して前のCPUの設定を持っているからです。

Serial ATAを接続する

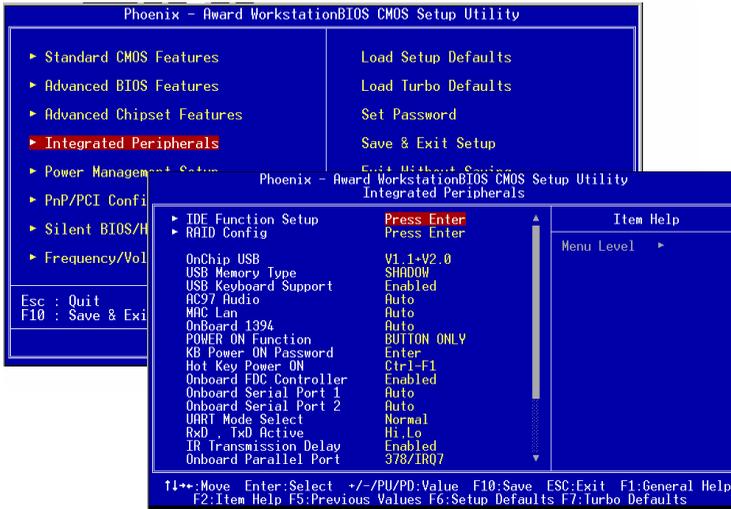
Serial ATAディスクを接続するために、7ピンのSerial ATAケーブルが必要です。Serial ATAケーブルの両端をマザーボード上のSerial ATAヘッダーとディスクに接続します。他の従来のディスクのように、電源ケーブルも接続します。ジャンパーレスであることに注意してください。マスターがスレーブディスクを定義するためにジャンパーを設定する必要はありません。Serial ATAハードディスクをSerial ATAポートにインストールするときは、自動的にポート1 (SATA1)に接続する方が最初に起動するブートデバイスになります。ホットプラグ機能をサポートしていないことに注意してください。



ハードディスクの設定を調整する

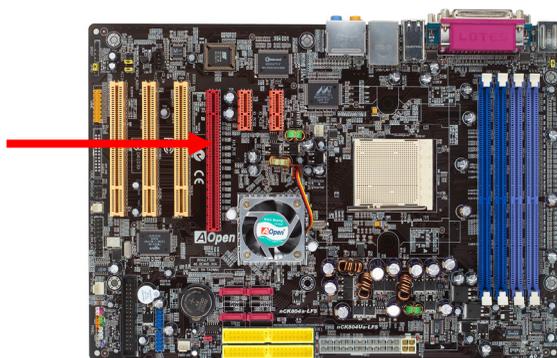
オリジナルの2セットの平行IDEを除いて、当マザーボードは最新のSerial ATAハードディスクをサポートしています。インストールをした後で、最新のインストールしたばかりのSerial ATAハードディスクがOS上に見つからないなら、BIOS設定に問題があるかもしれません。正しく機能するようにBIOS設定を調整できます。

ハードディスクを正しくインストールした後で、調整用のBIOS設定画面に進んでください。SATAインターフェイスをオン・オフにするために **“Integrated Peripherals → IDE Function Setup”**の順に押してください。



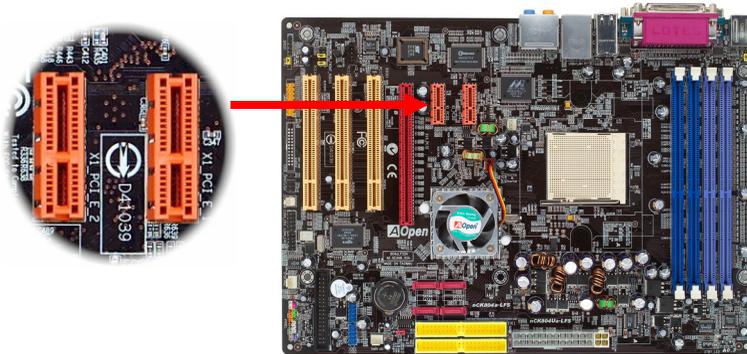
PCI Express x16グラフィックス・スロットに接続する

nCK804a-LFS/nCK804Ua-LFSはPCI Express x 16グラフィックス・スロットを提供します。これはマザーボード上に最新のPCI Express x 16仕様を持つ黒色のスロットです。PCI Express x 16は高品質の3Dグラフィックスをターゲットにしたバス・インターフェイスです。従来は、AGPが8X AGP用の66MHzクロックの最盛期と後退期の両方で使用され、データ転送率は2.1GB/sに達しました。現在PCI Express x 16はさらに早いデータ転送率へと進歩しつつあり、8.0GB/s (250MB/s x 16 x 2、各向きに4GB/s)までにアップグレードされています。



PCI Express x 1 スロットに接続する

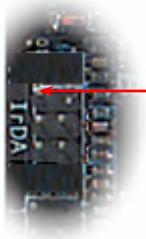
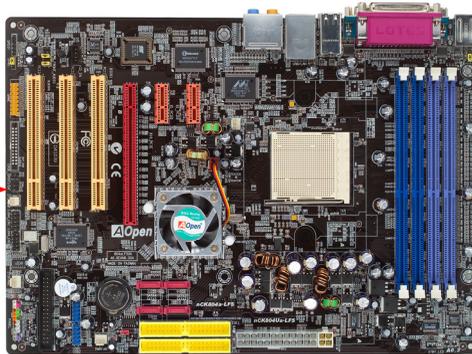
当マザーボードはPCI Express x 1 スロットを2つ提供しています。これはPCI Express x 16と従来のPCIスロットの間に位置します。現在と今後のプロセッサと同調するために、PCI Express x 1はより広域なI/Oバンド幅を提供します。転送データ率は250MB/sに達しました。これは従来のPCIのデータ転送率のほぼ2倍に迫っています。好みに応じてどのようなPCI Express x 1 デバイスでもスロットにインストールできます。



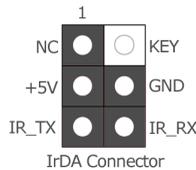
IrDAに接続する

IrDAコネクタはワイヤレス赤外線モジュールをサポートするように設定できます。このモジュールとLaplink、Windows Direct Cable Connectionのようなアプリケーションを使って、ユーザーはファイルをラップトップ、ノートパソコン、PDA装置やプリンターに転送できます。このコネクタはHPSIR (115.2Kbps, 2 meters)とASK-IR (56Kbps)の両方をサポートしています。

赤外線モジュールをIrDAコネクタにインストールし、BIOS設定のUARTモードから赤外線機能を有効にすると、この機能を使用できます。IrDAモジュールを差し込むときは、正しい向きに差し込んでいることを確認して下さい。



1番ピン



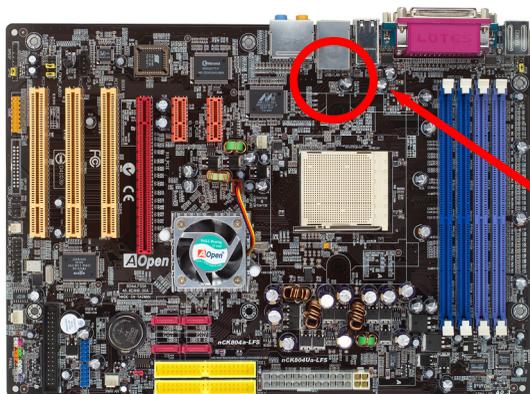
10/100/1000Mbps LANをサポート

ボード上のギガビットLANコントローラーの強度については、当マザーボードはオフィスと家庭の用途のために10/100/1000Mbps Ethernetを提供しています。Ethernet RJ45コネクタはUSBコネクタの上部に位置しています。右側のLEDはリンクモードを示していて、ネットワークとリンクされているとオレンジ色に点灯します。左側のLEDは転送モードを示していて、データが100Mbps（10Mbpsだと点灯しない）で転送されていると緑色に点灯します。しかしギガビットモードで転送されているとオレンジに点灯します。この機能をオン・オフにするにはBIOSを通して調整してください。LANの起動機能をオンにするには、BIOSの“Power Management Setup”セクションで“Wake on PCI Card”をオンにセットしなければなりません。



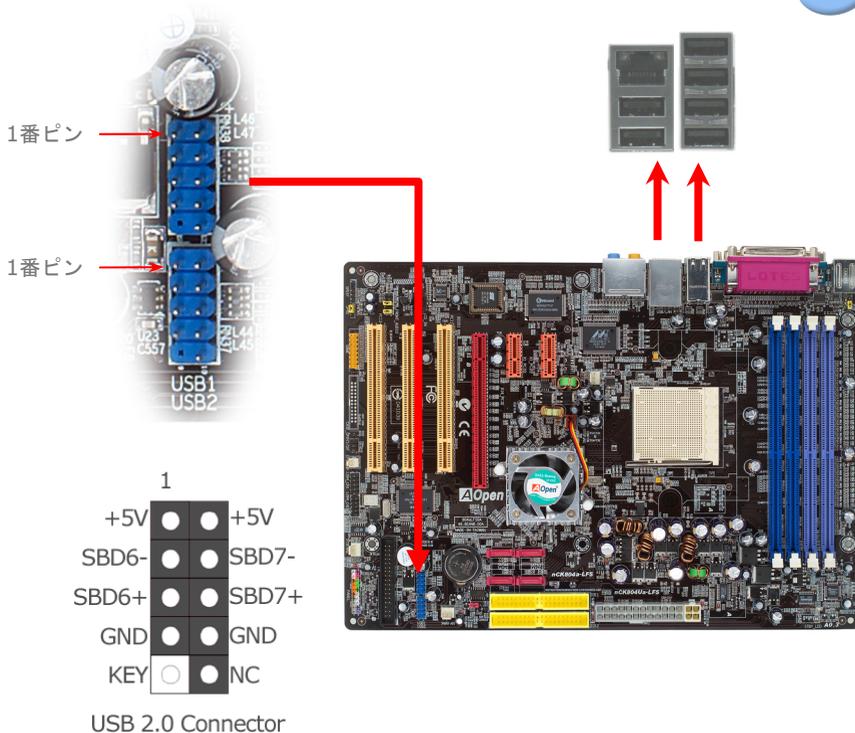
速度 LED (左)
緑色 100Mbps
オレンジ色 ギガビット
モード

ACT LED (右)
オレンジ色



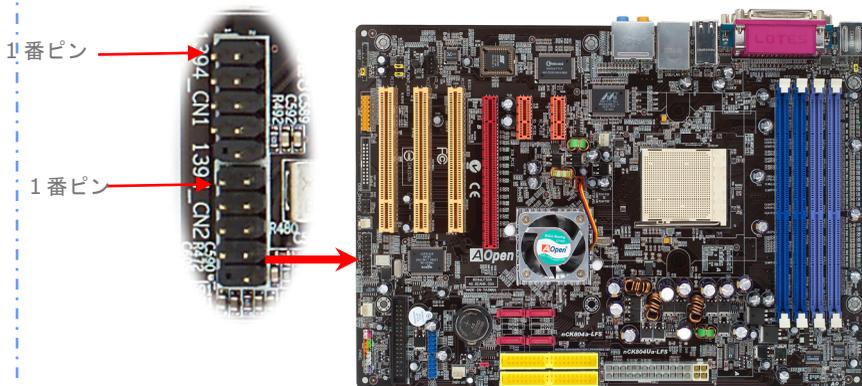
USB2.0に接続する

当マザーボードはマウス、キーボード、モデム、プリンターなどのUSB装置に接続できるよう10個のUSB 2.0ポートを備えています。後部パネルにはポートが6つあります。フロントUSBコネクタをUSBモジュールやケースのフロントパネルに接続するために適切なケーブルをお使いください。



1394に接続する

当マザーボードにはボード上にAGERE 1394コントロールチップが付属しており、IEEE1394チップによって、400Mb/sまでのデータ転送率を提供しています。このインターフェイスは高速のデータ転送パフォーマンスを要求するデジタルカメラ、スキャナーなどの他のIEEE 1394デバイスと接続できます。IEEE 1394デバイスと接続するには適切なケーブルを使用してください。



	1	2	
TPA+	●	●	TPA-
GND	●	●	GND
TPB+	●	●	TPB-
+12V (Fused)	●	●	+12V (Fused)
	○	●	SHIED GND

IEEE 1394 コネクター



警告： IEEE 1394ヘッダーではホットプラグができないことに注意してください。そうしてしまうと制御ICを焼き付けてしまったり、マザーボードに損傷を与えたりします。

S/PDIFに接続する

S/PDIF (Sony/Philipsデジタルインターフェイス)は最新のオーディオ転送ファイルフォーマットです。これは光ケーブルを通して優れたオーディオ品質を提供し、アナログオーディオの代わりにデジタルオーディオを楽しんで頂くことを可能にしています。特定のオーディオケーブルを通して、S/PDIFコネクタをS/PDIFオーディオモジュールの他方の端に接続できます。これがS/PDIFデジタル出力を担います。通常は以下に示されるように2つのS/PDIF出力があり、一つはRCAコネクタ用、つまり消費されるオーディオ製品に使用される最も一般的なもの、そして他方はより良いオーディオ品質のための光学コネクタ用です。出力のように、RCAあるいは光学オーディオ製品をモジュールのコネクタにインプットしたり、コンピューターから出る音声や音楽をとるために接続することもできます。しかし、この機能を最大限に活用するために、S/PDIFデジタル入力/出力に接続できるよう、S/PDIFデジタル入力/出力を備えた、S/PDIFをサポートするスピーカー/アンプ/デコーダーが必要です。

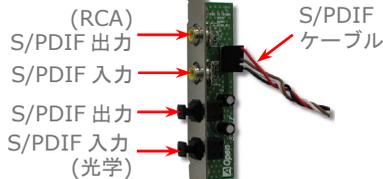
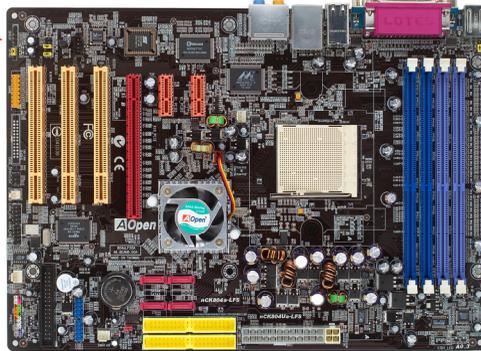


1番ピン



- 1 ● +5V
- KEY
- SPDIF OUT
- GND
- SPDIF IN
- 5

S/PDIFコネクタ

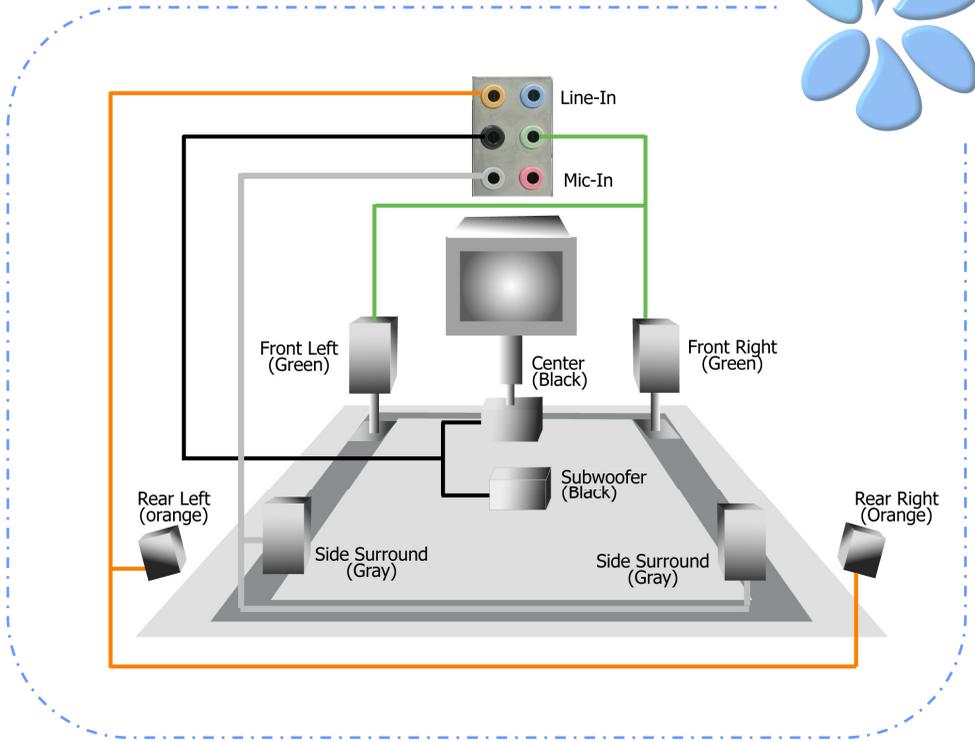


S/PDIF モジュール



スーパー7.1チャンネルオーディオ効果

本マザーボードにはAC'97 (Realtek ALC850) CODEC が付いており、音響効果において高品質な最新の7.1チャンネルをサポートしています。これによって全く新しいオーディオ体験ができるでしょう。当マザーボードは以下に示される7.1チャンネルを提供しています。図は7.1チャンネルサウンドトラックの全てのスピーカーの標準的な位置を示しています。前面スピーカーのプラグを緑色の“Speaker out (スピーカー出力)”ポートに、後部のサラウンドスピーカーをオレンジ色のポートに、側面のサラウンドスピーカーを灰色のポートに、中央とサブウーハースピーカーの両方を後部パネルの黒色のポートに接続してください。

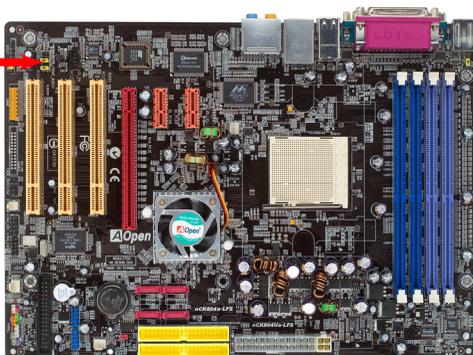


フロントオーディオに接続する

もしケースのフロントパネルにオーディオポートが付いている場合は、このコネクタを通してオンボードオーディオをフロントパネルに接続できます。ケーブルに接続する前に、フロントオーディオコネクタからジャンパーキャップを外してください。もしケースのフロントパネルにオーディオポートがない場合は、黄色のジャンパーキャップを外さないで下さい。



1番ピン



	1		
AUD_MIC	●	●	AUD_GND
AUD_MIC_BIAS	●	●	AUD_VCC
AUD_FPOUT_R	●	●	AUD_RET_R
NC	●	○	KEY
AUD_FPOUT_L	●	●	AUD_RET_L

Front Audio Connector

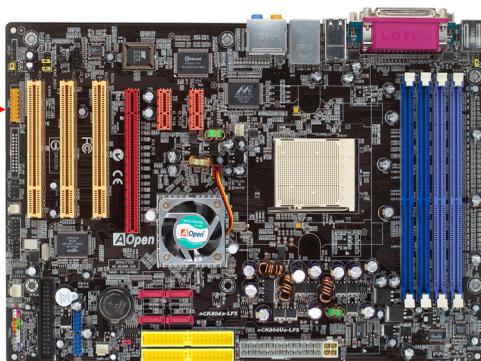


ゲームポートに接続する

当マザーボードにはゲームポート(Joystick-Midi)が付いており、どのMIDI装置やジョイスティックにも接続できます。この機能を使用するためには、ジョイスティックモジュールが必要で、マザーボードのこのポートにゲームポートを接続します。



1番ピン



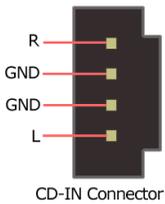
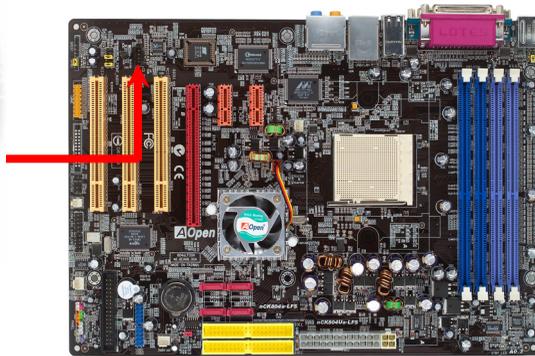
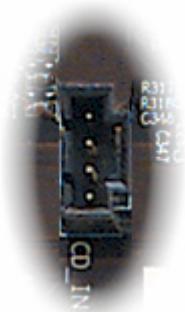
KEY	○	●	+5V
MIDI_RXD	●	●	JAB2
JBB2	●	●	JACY
JBCY	●	●	GND
MIDI_TXD	●	●	GND
JBCX	●	●	JACX
JBB1	●	●	JAB1
+5V	●	●	+5V
	2	1	

ゲームポートコネクタ
(オプションでアップグレード)



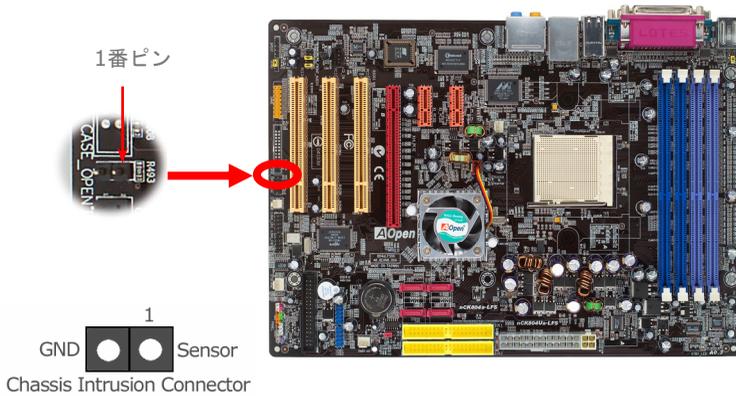
CD_INに接続する

このコネクタはオンボードサウンドのために、CDROMやDVDドライブからCDオーディオケーブルに接続するよう設計されています。



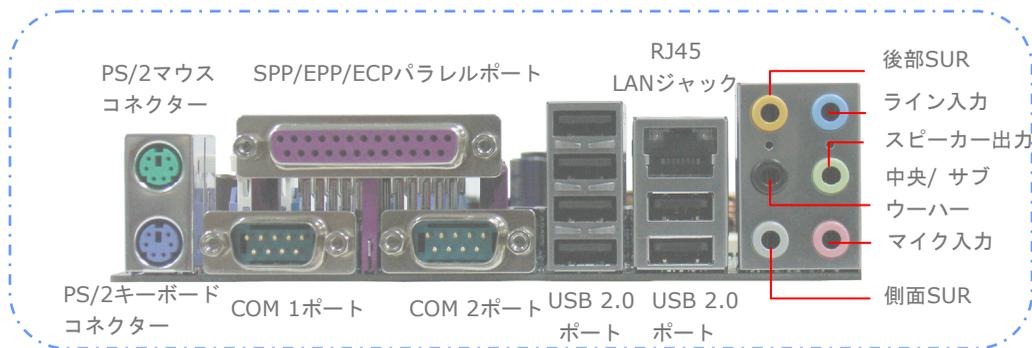
Case Openに接続する

“CASE OPEN”ヘッダーはケースへの侵入監視機能を提供しています。この機能を実行させるには、システムBIOSの中でそれをオンにし、このヘッダーをケースの中のセンサーに接続しなければなりません。センサーが光や、ケースが開けられて誘発させられると、システムはビープ音で知らせます。この便利な機能は先進のケースのみに適用できることをお知らせします。余分なセンサーを購入し、ケースに接続し、この機能を十分にお使いください。



色分けされた後部パネル

オンボードのI/OデバイスにはPS/2キーボード、PS/2マウス、RJ-45 LANコネクタ、COM1、COM2ポート、プリンター、USB、AC'97サウンドがあります。以下の写真はケースの後部パネルから撮ったものです。



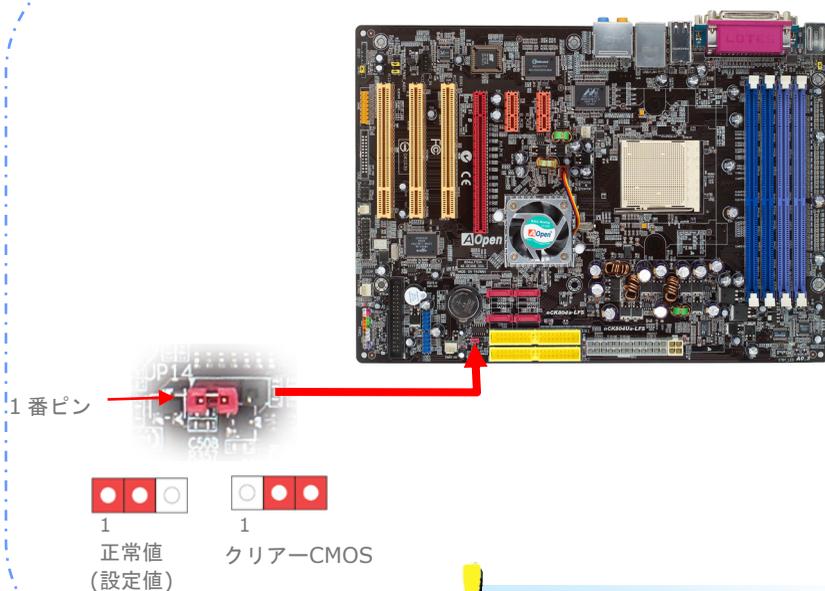
- PS/2 キーボード :** PS/2プラグを使用する標準的なキーボード
- PS/2 マウス :** PS/2プラグを使用するPCマウス
- USB ポート :** USBデバイスとの接続用
- パラレルポート :** SPP/ECP/EPPプリンターと接続
- COM1 ポート :** ポインティングデバイス、モデム、他のシリアルデバイスと接続
- COM2 ポート :** ポインティングデバイス、モデム、他のシリアルデバイスと接続
- RJ-45 LAN ポート :** 家庭用、事務所用Ethernetと接続
- 後部 SUR:** 後部スピーカー用
- 中央/サブウーハー :** 中央とサブウーハー用
- 側面 SUR:** 側面サラウンドスピーカー用
- スピーカー出力 :** 外部スピーカー、イヤフォン、アンプ用
- ライン入力 :** CDやテープなどのシグナルソースから
- マイク入力 :** マイク用

3.4 ジャンパー設定

JP14 データクリアー ジャンパー

CMOSをクリアすると、システムをデフォルト設定値に戻せます。以下の方法でCMOSをクリアします。

1. システムをオフにし、ACコードを抜きます。
2. コネクタPWR2からATX電源ケーブルを外します。
3. JP14の位置を確認し、2-3番ピンを数秒間ショートさせます。
4. JP14を通常動作時の1-2ピン接続に戻します。
5. ATX 電源ケーブルをコネクタPWR2に挿します。



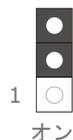
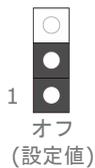
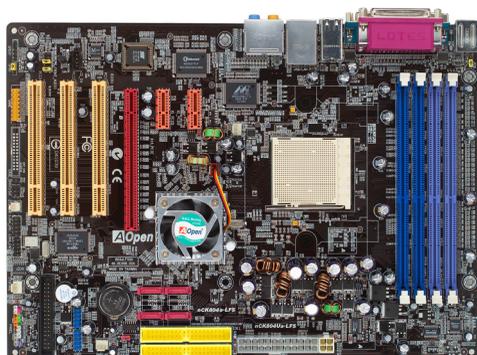
ヒント：CMOSクリアーが必要な場合は？

1. オーバークロック時の起動失敗...
2. パスワードを忘れた...
3. トラブルシューティング...

JP28 キーボード/マウス

ウェイクアップ・ジャンパー

当マザーボードはキーボード / マウス・ウェイクアップ・ジャンパー機能を提供しています。この機能のオン・オフはP28を使って行います。キーボードあるいはマウスを使ってシステムをサスペンド状態から再開できます。工場設定値は“オフ”(1-2)ですが、ジャンパーを2-3に設定することで、この機能をオンにできます。



4章 特別な機能とユーティリティー

RAID (Redundant Array of Independent Disks)

当マザーボードはRAID 0、RAID 1およびRAID 0+1機能をサポートしています。RAIDの紹介についての情報は、ウェブサイトにてご確認ください：
<http://english.aopen.com.tw/tech/techinside/RAID.htm>

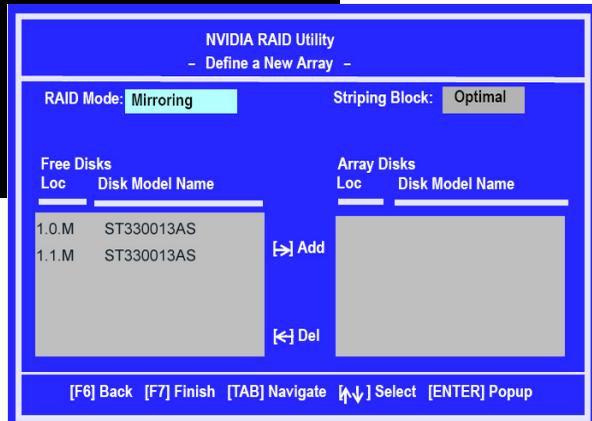
RAID構成ユーティリティー

Nvidia nForce4 チップセットはRAID 0、RAID 1およびRAID 0+1機能をサポートしています。システムがSerial ATA RAIDデバイスをスムーズに認識して機能させていることを確認するために、設定を行うためにRAID 構成ユーティリティーに入力する必要があります。BIOS設定を終えて再起動した後で、ブートが半ばを過ぎた頃に[Press F10 to enter RAID setup utility] が表示されます。F10をすぐに押すと、以下のような画面が表示されます。このユーティリティーを使ってディスクアレイを作成したり削除したりできます。

```
NVIDIA RAID IDE ROM BIOS 4.34
Copyright (c) 2003 NVIDIA Corp.

Detecting array...

Press F10 to enter RAID setup utility
```



メモ： RAID 0あるいは RAID 1 をスムーズに機能するために、ユーザーは NVIDIA RAID CLASS DRIVERおよび NVIDIA NForce Storage Controllerの両方をインストールする必要があります。

他の便利な機能

研究開発チームの優れた設計能力により、AOpenは下記のような弊社製品に付属する多様で強力、そして手ごろな機能に自信をしております。そうした機能についてさらに学ばれるよう、私たちのテクニカルウェブサイトを訪問なさってください。

<http://english.aopen.com.tw/tech/techinside>



Gigabit LAN



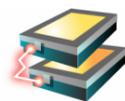
Dual Channel



ATA133



IEEE1394



RAID



Serial ATA



Serial ATA2

5章 BIOSを設定する

紹介

システムのパラメーターはBIOS設定メニューに入って調整できます。このメニューではシステムパラメーターを設定したり、128バイトのCMOSエリア（通常はRTCチップかメインチップセットの中）に構成を保存できます。

マザーボードのFlash ROMがインストールされているPhoenix-Award BIOS™は業界標準BIOSのカスタムバージョンです。BIOSはハードディスクドライブ、シリアル、パラレルポートなどの標準的なデバイスのための重要な低層レベルでのサポートを提供しています。

AOpenの研究開発エンジニアリングチームは当マザーボードのほとんどのBIOS設定を最適化しました。しかし、BIOSのデフォルト設定のあるものはチップセットで制御されている部分を微調整できませんでした。そのため、この章では幾つかの設定を調整する手助けをすることを意図しています。

BIOS設定メニューに入るため、画面にPOST（パワーオン・セルフテスト）が表示されるとキーを押してください。



メモ： BIOSコードはマザーボード上で最も頻繁に変更される部分なので、このマニュアルに含まれるBIOS情報はお手元のマザーボードに付属するBIOSバージョンとは異なる場合があります。

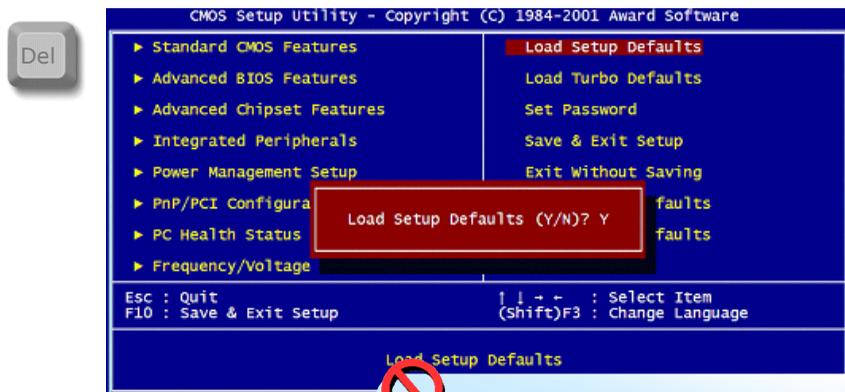
Phoenix-Award™ BIOS設定プログラムの使い方

一般的に、選択したい項目は矢印キーを使って強調し、選択のためには<Enter>キーを押します。値を変更するには<Page Up>と<Page Down>キーを使います。Phoenix-Award™ BIOS設定プログラムを終了するには<Esc>キーを押します。以下の表はPhoenix-Award™ BIOS設定プログラムの中でキーボードの使い方の詳細を示しています。別の方法としては、詳細情報を入手するために、一層強力な機能とBIOSの高度な設定のあるAOpenの最新WinBIOSユーティリティをインストールされるようお勧めします。

キー	説明
Page Up か +	設定を次の値に変更するか、値を増やす。
Page Down か -	設定を次の値に変更するか、値を減らす。
Enter	項目を選択する。
Esc	メインメニュー：変更を保存せず終了する。 サブメニュー：現在のメニューからメインメニューへ戻る。
↑	前の項目を強調する。
↓	次の項目を強調する。
←	バーをメニューの左側に移動させる。
→	バーをメニューの右側に移動させる。
F6	CMOSメニューからセットアップデフォルト設定値をロードする。
F7	CMOSメニューからターボ設定値をロードする。
F10	変更された設定を保存し、セットアッププログラムを終了する。

BIOS設定への入り方

ジャンパー設定を終え、ケーブルを接続してから、電源を投入しBIOS設定に入ることができます。POST（パワーオン・セルフテスト）の間にキーを押し、推奨最適パフォーマンスのために"Load Setup Defaults"を選択してください。



警告： ご自分のシステムコンポーネント (CPU, SDRAM, HDD など) がターボ設定に十分であることが確かでない限り、"Load Turbo Defaults" を使用しないでください。

6章 ドライバーをインストールする



ドライバーやユーティリティのインストールはインストールウィザードやステップに従って繰り返し行う作業だとお考えかもしれませんが。それでは、EzInstallがどれほど“簡単に”それをやってのけるかに驚かれるかもしれません。ウィザードやステップはなく、皆さんにはただ一回クリックして頂くだけです。クリックしたら終わりです。EzInstallはインストールを簡単にし、誰でも間違えずにできるようにしてくれます！

CDを入れると、AOpenの“ようこそ”ページと社社情報が出てきます。

まず、必要なドライバーのために左側のインストールドライバーのアイコンをクリックしてください。

次に、お好みのユーティリティのために右側のインストールユーティリティのアイコンをクリックしてください。

実質的にはこれだけです。しかしCDの内容をブラウズしたり、もっと情報を入手するためにReadmeを見たり、CDインストールを終了したりできます。

The screenshot shows the AOpen EzInstall menu. On the left, there are several icons representing different installation options: a CD, a folder, a floppy disk, a CD-ROM, a floppy disk, and a CD-ROM. On the right, there is a 'Welcome' message and contact information for AOpen Inc., AOpen Computer GmbH, AOpen America Inc., AOpen Japan Inc., AOpen Computer B.V., and AOpen International Co., Ltd. The 'Exit CD' option is highlighted at the bottom.

Callouts from the image:

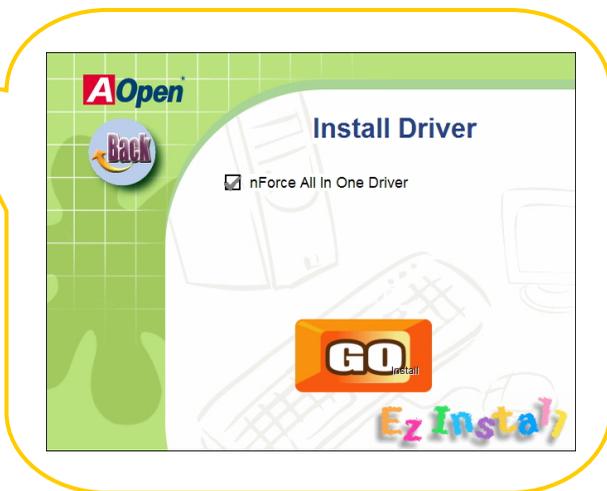
- ドライバー (Driver)
- ユーティリティ (Utility)
- CDの内容をブラウズ (Browse CD content)
- Readme
- Exit CD
- クリックしてオンラインマニュアルをインストール (Click to install online manual)
- AOpenの社社情報 (AOpen's company information)

6.1 ドライバーをインストールする

Install Driver(ドライバーをインストールする)というページから分かるように、EzInstallはマザーボードのために必要なものを拾い上げてくれました。皆さんがすることはただ“GO”をクリックするだけで、その後にステップはありません。リストに挙がっているドライバーの中で、灰色でチェックされているのは必要なドライバーで、皆さんが除外することはできません。赤色のチェックは今回必要でないならオフにできるものです。



アイコンを押すと“Install Driver”ページが出ます。メインページに戻るために“Back”を押すこともできます。



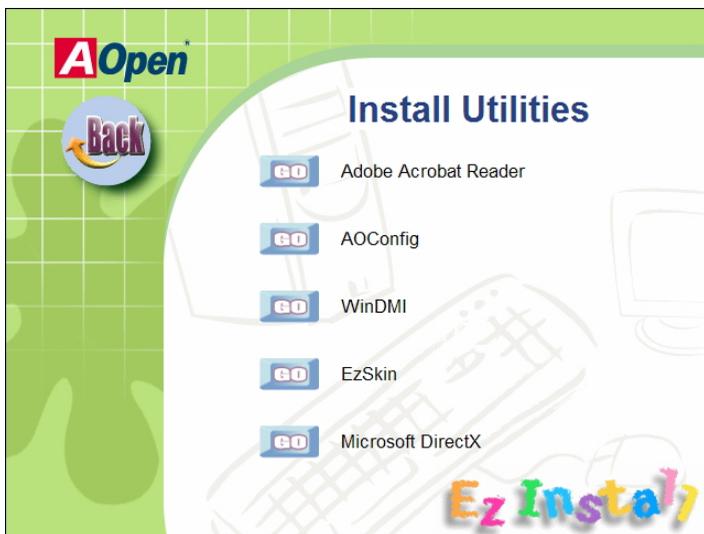
一度“GO”をクリックするとEzInstallは自動的にインストール手順を実行してから、再起動ダイアログを出します。(ドライバーやユーティリティーの中には再起動の部分をスキップするものもあります。)

6.2 ユーティリティーをインストールする

Installing Utilities (ユーティリティーをインストールする) はドライバーのインストールとほとんど同じです。AOpenはシステムを管理するために、たくさんの使いやすく強力なユーティリティーを提供しています。数多くの素晴らしいユーティリティーが列挙されていることがお分かりになるでしょう。皆さんにはただ“GO”をクリックして頂くだけで、あとは複雑なステップはなしにシステムにユーティリティーがあつという間にインストールされます。



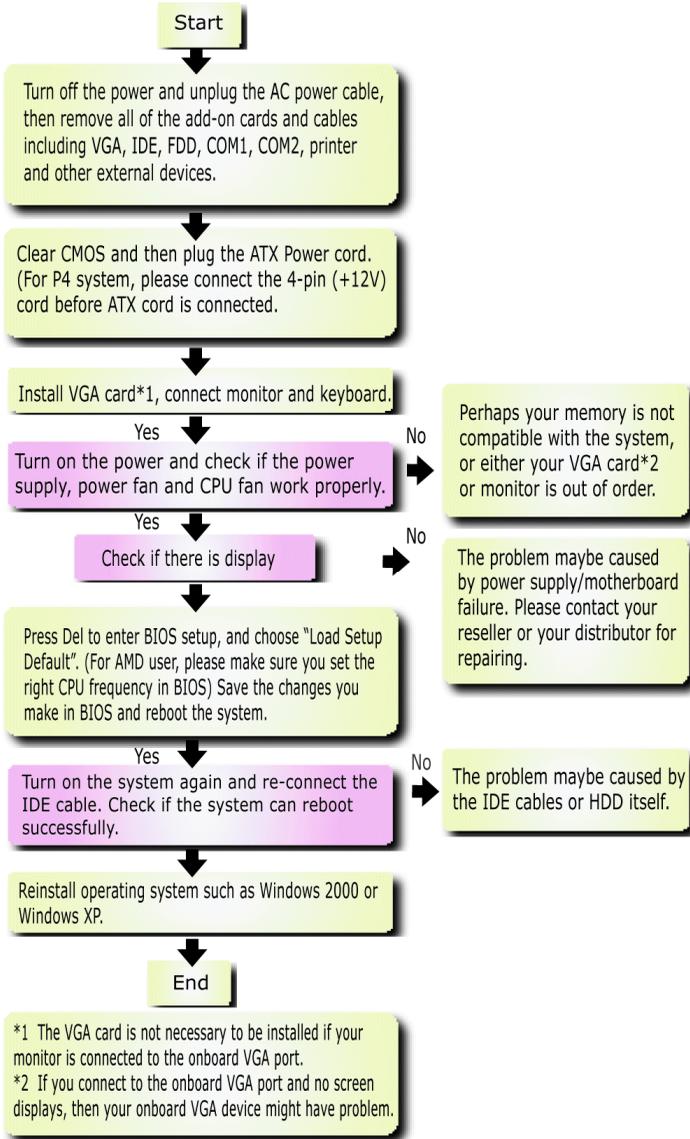
アイコンを押すと選択できるよう“Install Utilities”ページが出ます。メインページに戻るために“Back”を押すこともできます。



7章 トラブルシューティング



TroubleShooting



8章 テクニカルサポート

ユーザーの皆様へ、

AOpen製品をお買上げいただき、ありがとうございます。製品を <http://www.aopen.com> で登録されると、Club AOpenのゴールドメンバーとなり、以後の質の高いサービスをご利用いただけます。ユーザーの皆様は質の高いサービスを継続的に提供するため以下の手順をご参考になり、お買上げ地域にある当社の支社からのサポートをお受けください。ユーザー皆様のご協力により、効率的かつ最良のサービスが皆様に引き続きご利用いただけます。

ご協力に感謝いたします。

AOpenテクニカルサポートチーム



ヨーロッパ Eメール : Support@AOpen.NL
太平洋地区 : <http://www.aopen.com.tw/tech/default.htm>
中国 : <http://www.aopen.com.cn/tech/default.htm>
ドイツ : <http://www.aopencom.de/tech/default.htm>
アメリカ : <http://usa.aopen.com/tech/default.htm>
日本 : <http://www.aopen.co.jp/tech/default.htm>

型式名およびBIOSバージョン

型式名およびBIOSバージョンは最初の起動画面(POST画面)の左上に表示されます。



例えば、nCK804a-LFSはマザーボードの型式名で、R1.02はBIOSバージョンです。

お買い上げのマザーボードの登録

AOpen製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。お買い上げのマザーボードは <http://club.aopen.com.tw/productreg/> からご登録いただきますと、Club AOpenの会員となり、AOpenからの質の高いサービスが優先的にご利用いただけます。また、スロットマシンゲームに参加してAOpenからの景品獲得もできます。登録の際には下記の情報をご用意ください。 形式名、パーツ番号(P/N)、シリアル番号(S/N) およびお買い上げ日。 パーツ番号およびシリアル番号はバーコードラベルに印刷されています。バーコードはパッケージ外側またはPCBのコンポーネント側に付いています。以下が一例です。



パーツ No.

シリアル No.

P/N: 91.88110.201はパーツNo、S/N: 91949378KN73はシリアルNoです。

Phoenix-Award BIOSエラーメッセージ

エラー音	メッセージ
1回短く (・)	システムのブートが正常
1回長く - 1回短く (-・)	DRAMエラー
1回長く - 2回短く (-・・)	ディスプレイカードあるいはモニターの接続エラー
1回長く - 3回短く (-・・・)	キーボードエラー
長いエラーが継続 (- - - -)	DRAMが正しく装着されていない



Technical Support

Online Manual: To download manual, please log on and then select your preferred language. Under "Type" directory, choose "Manuals" to go to our manual database. You can also find the manual and EIG in AOpen Bonus Pack.

<http://download.aopen.com.tw/downloads>

Test Report: We recommend you to choose board/card/device from the compatibility test reports for assembling your PC. It may prevent incompatibility problems.

<http://english.aopen.com.tw/tech/report/default.htm>

FAQ: Here we list problems that users often encounter and FAQ (Frequently Asked Questions). You may select your preferred language after log on, and may be able to find a solution to your problem.

<http://club.aopen.com.tw/fag/>

Download Software: After log on and having language selected, you may get the latest updated BIOS/utility and drivers you need under "Type" directory. In most case, newer versions of drivers and BIOS have solved earlier bugs or compatibility problems.

<http://download.aopen.com.tw/downloads>

eForum: AOpen eForum is provided to discuss our products with other users, in which your problem probably had been discussed before or will be answered. After log on, you may select your preferred language under "Multi-language".

<http://club.aopen.com.tw/forum>

Contact Us: Please prepare detail system configuration and error symptom before contacting us. The part number, serial number and BIOS version are also very helpful.

Contact Distributors/Resellers: We sell our products through resellers and integrators. They should know your system configuration very well and should be able to solve your problem efficiently and provide important reference for you.